

令和3年度 都城市立志和池中学校 学校関係者評価票

[ 4段階評価 4:期待以上 3:ほぼ期待通り 2:やや期待を下回る 1:改善を要する ]

評価項目	評価指標	細部評価	学校の自己評価コメント	自己評価	学校の改善策	外部評価コメント	外部評価
知 (学習)	(1) 学校は生徒に対して基本的な学習訓練や学習態度育成等の指導ができていますか。	3	○ 全体的にほぼ期待通り以上の評価となっている。 ○ 【基本的な学習態度育成】については、昨年度との評価では、教員と生徒は昨年度同様の9割が3、4評価保護者は若干の上昇。 ○ 本年度設定した項目【学力向上】については、三者の3、4の評価が8割を超えたが、教員の多くが3の評価となっている。学力の低い生徒の学力向上に対して更に学習指導に取り組んでいかなければならないと考えていることが伺える。 ○ 学習面に関しては、生徒の4の評価の割合が多いが、両項目共に教師は3の評価が多数を占めており、現状に満足せず、更に学力向上に力を入れていかなければならないと感じている教師の意識が読み取れるのではないかと。昼休みや放課後などに個別の学習指導に取り組んでいる。地道な取組が生徒の基礎学力の支えとなっていると考えている。	3	○ 落ち着いて集中できる学習環境および学習態度が育成されている反面、課題の提出、家庭学習の取組が思わしくない生徒の指導を粘り強く取り組んでいく必要がある。 ○ 引き続き年間を通して授業力向上の研修に取り組んでいく。	○ タブレット導入に当たって、教育的効果が得られることを期待している。 ○ 生徒は少々評価の視点を甘めにしていないようだ。保護者、教師は厳しく評価しているのではないかと。 ○ 学力の満足度は、先生方の努力の成果であると考え。	3.1
	(2) 学校は、生徒に学習内容を定着させ学力の向上を図ることができていますか。	3	○ 学習面に関しては、生徒の4の評価の割合が多いが、両項目共に教師は3の評価が多数を占めており、現状に満足せず、更に学力向上に力を入れていかなければならないと感じている教師の意識が読み取れるのではないかと。昼休みや放課後などに個別の学習指導に取り組んでいる。地道な取組が生徒の基礎学力の支えとなっていると考えている。	3	○ タブレットの導入で、生徒にとっては新しい学習の形に期待感が高まっている。有効に効率的に学習効果を上げる使い方を今後も研修していく。 ○ どの学年も実力テストは市内の平均値を上回っているが、求められている点数化されない思考力や表現力の育成を図っていくことが課題である。		
徳 (心の教育)	(3) いじめや不登校等の問題も含め、生徒には思いやりの心が育っていますか。	3	○ 全体的には、昨年度の評価との差はない。 ○ 注目すべきところは、【いじめ・不登校・思いやりの心】の項目で、99%の生徒が3、4の評価に増加したことに対して、教員の4の評価が減り3の評価にとどまっている点である。現状に満足せず、生徒の教育活動、生徒指導に取り組もうとしている意識が読み取れるのではないかと。 ○ 特別な支援が必要な生徒や不登校生には、日頃から保護者との連絡をとるなどしているが、改善方向に直結しないケースがあり、教員が期待以上の4の評価を踏みとどまっていると感じる。	3	○ SSW、SC等専門機関との連携による不登校生への働きかけを積極的に行なっていく。 ○ 道徳科、教育相談週間を始めとする心の醸成の時間を計画的に取り組んでいく。 ○ 毎週末の給食時の放送で、SNSについての注意喚起の取組を現在行なっているが、今後も継続していく。 ○ 定期的な命の大切さを考える日の設定による涵養を進めていく。。	○ 保護者の不安感(1、2の評価)があるが、認識の違いが考えられる。繰り返し粘り強く指導、啓発に取り組んでいかなければならない。 ○ こころの育成は継続して取り組んでいく。 ○ 教育相談などから生徒の悩みをキャッチして欲しい。 ○ コロナ禍で、地域とのつながりが薄れている中、地域としても、生徒に声をかける等、目を向けていく必要を感じる。	3.3
	(4) (保・教)生徒は一人一人が存在感をもち、学校生活を充実できていますか。 (生)あなたは自分の存在を感じ、学校生活が充実していますか。	3			○ 生徒の情報交換の時間を定期的に設定し全職員の共通理解による生徒指導に取り組む体制の構築を図る。		
体 (体力の向上)	(5) 生徒は学校生活を通じて、健康で安全な生活を送る態度が育成されているますか。	3	○ 昨年度の学校運営協議会においての提案を受け入れた項目。 ○ 生徒保護者は、健康安全面についてほぼ期待通り以上と感じている割合が90%だが、【健康で安全な生活を送る態度の育成】についての教員の評価は約2割がもう一步評価している。 ○ 体力に関する2つの項目の生徒の評価は6割が期待以上の回答があった。身体を動かすことに対する満足感が高い生徒が多いと感じる。	3	○ 感染症予防の生活の習慣化をめざした健康指導を継続していく。 ○ 安全教育の企画立案を推進していくとともに、安全点検及び安全な生活の指導を徹底していく。	○ 様々な制約がある中で部活動に取り組んだ状況も合ったことを考えれば、体力の向上に対する生徒の評価の回答内容は、評価できると考える。	3
	(6) 生徒は学校生活を通して、体力(運動面・健康面)の向上が見られますか。	3			○ 体育的行事、部活動、保健体育の授業を中心に、体力向上の意識を全職員が共有し取り組んでいく。駅伝・ロードレース大会のような長距離走に特化した行事に取り組んでいる学校は少ない。この強みを生かしていくとが大切であると考えている。		
保護者・地域との連携	(7) (保・教)学校は保護者や地域社会への情報発信を積極的に推進していますか。 (生)あなたは家庭で保護者に学校の退出物を渡したり、学校のことを話題にしていますか。	3	○ 情報発信については、3、4の評価が昨年度より若干の上昇。各担任の終末ごとの通信、ホームページの更新などにより発信してきたが、すべてにおいて情報発信が行き届かない点があった。 ○ 安心・安全メールについては全家庭の加入が達成された。連絡網を使用していたときの保護者の負担や教員の負担が大幅に解消されたと共に、緊急連絡の確実な伝達ツールとなっている。	3	○ 行事を中心としたホームページの更新と、各担任の学級通信による学校の情報発信を継続していく。	○ 地区懇談会を開催することができなかったが、通学路の安全確認公民館館長と確認する場としては必要性を感じるところである。 ○ コロナ禍が落ち着き、六月灯の開催が可能となったときは、部活動の時間などを配慮してもらって、中学生の地区行事への参加の機会を増やして欲しい。	3
	(8) (保・教)学校は学校行事への参加呼びかけと地域住民の人材を積極的に活用していますか。 (生)あなたは地域住民の方にあいさつしたり、地域の活動に参加するなど地域の方とのふれあいがありますか。	3	○ 【地域人材活用】については、保護者、教員共に3、4の評価は上昇。コロナ感染状況の落ち着きにより、昨年度よりも校外の人材との交流が可能となったことが要因と考えられる。 ○ 生徒の評価の【地域行事・地域の方へのあいさつ】の項目では、行事はほとんどなかったにも関わらず3、4の評価数が多かったが、挨拶に関しては地域の方から評価をいただくことが多いので、生徒は地域の方とのふれあいを意識して行なっている	3	○ 地域人材活用は、今後も感染状況に応じて依頼していく。 ○ 生徒の地域における行動(挨拶や、登下校の際の交通安全など)についての指導を継続していく。		
学校生活	(9) 学校は生徒のことを理解し、きめ細かな指導ができていますか。	3	○ 【きめ細やかな指導】については、教師の評価が上昇生徒の1評価が解消された。生徒教師の評価が上がっていることから、学校における指導は一定の評価ができると考える。生徒からの相談や、日頃の生徒指導の体制が、各学年のチームワークにより丁寧に取り組まれていた成果であると考察する。 ○ 保護者については1、2の評価が増加し、学校と保護者の信頼関係を再考することが必要である。	3	○ 職員会、学年会、教育相談、アンケートなど生徒の状況把握体制の強化を図っていく。	○ 地域にあっても、挨拶が大変良い。 ○ ほとんどの生徒が挨拶をしている姿を見かける。 ○ 下水流地区は、見守り活動を継続して取り組んでいる。 ○ 下校時の暗さ、不審者などへの対策が大切。地域で見守っていくことが必要。 ○ 公民館で迎えの車待つ生徒の様子を見ていると大変仲がいい。公民館にも挨拶を欠かさない。	3.3
	(10) 生徒は挨拶や服装・髪型などの基本的な生活習慣を身に付けていますか。	3	○ 【基本的な生活習慣】については、生徒、教員は3、4評価の増加、保護者は若干の減少。昨年度は3と4の評価が近似値だった教師の評価が本年度は、3評価の数が増加している。基本的な生活習慣については、4評価を目標に指導を継続していく必要がある。	3	○ 生徒指導主事をリーダーとしての生徒指導体制に加えて、生徒会など生徒の自主的な活動の支援体制を構築していく。		